

平成 19 年度第 2 回科学推進専門部会／#9 SSEP 事前打ち合わせ会議

日時：2007 年 11 月 6 日(火) PM13:00～17:00

場所：独立行政法人海洋研究開発機構 東京事務所 大会議室

出席者

専門部会委員：部会長／兼 地下圏微生物分科会長 丸山明彦（産業技術総合研究所）

【地球内部分科会】委員：廣野哲朗（大阪大学）富士原敏也*（海洋研究開発機構）道林克禎（静岡大学）

【地球環境分科会】委員：伊藤 慎（千葉大学）沢田 健（北海道大学）西 弘嗣*（北海道大学）

Liaison：多田隆治（東京大学）

【地下圏微生物分科会】委員：稲垣史生（海洋研究開発機構）砂村倫成（東京大学）奈良岡 浩（岡山大学）
福井 学（北海道大学）

SSEP 委員：安間 了（筑波大学）黒田潤一郎（海洋研究開発機構）高井 研（海洋研究開発機構）

山口耕生（海洋研究開発機構）

CDEX：江口暢久

執行部担当者：荒井晃作（産業技術総合研究所）

事務局：加賀谷一茶 梅津慶太 吉岡由紀

欠席者

専門部会委員：

【地球内部分科会】分科会長：小原泰彦（海上保安庁）委員：田村芳彦（海洋研究開発機構）

【地球環境分科会】分科会長：長谷川 卓（金沢大学）委員：亀尾浩司（千葉大学）

SSEP 委員：石渡 明（金沢大学）木村純一（島根大学）

鈴木 淳（産業技術総合研究所）高澤栄一（新潟大学）竹内美緒（産業技術総合研究所）

山崎俊嗣（産業技術総合研究所）

* 兼 SSEP 委員

議事次第

～ 科学推進専門部会 ～

【報告事項】

- 1) 航海中の「ちきゅう」の運航状況報告，今後の航海予定
- 2) 新しい乗船者選考 WG 制度の導入の経緯，実施後の感想 [資料 1-1] [資料 1-2]
- 3) 各国内部会の進捗状況，IODP の国際動向 [資料 2]
- 4) 新旧交代 SSEP 委員の紹介，今後の委員交代予定の確認 [資料 3]
- 5) 部会分科会委員の交代／再任について [資料 4]
- 6) その他の連絡事項

【審議事項】

- 1) 次に予定される 2 航海 WG 委員の選出と進め方 [資料 1-1]
- 2) H18 年度採択 IODP 掘削プロポーザル作成支援課題のアフターフォロー [資料 5-1] [資料 5-2]
- 3) 新しい掘削提案の掘り起こしについて
- 4) その他 [資料 6]

～ SSEP 事前打ち合わせ会議 ～

- 1) 予定される SSEP 会議の事前検討会
- 2) 次々回 SSEP の開催日程について（提案日：2008/5/19～22）
- 3) 退任者あいさつ
- 4) 新任者あいさつ
- 5) その他

配布資料

資料 1-1 乗船研究者選考 WG 制度：導入の経緯
資料 1-2 #318 Bering Sea 選考実施後コメント
資料 2 各専門部会の進捗状況，IODP の国際動向
資料 3 SSEP 委員ローテーション（案）
資料 4 科学推進専門部会委員ローテーション状況

資料 5-1 H18FY Proposal 作成支援 経過報告_筑波大学
資料 5-2 " " _JAMSTEC
資料 6 IFREE による IODP 関連構造探査の進め方
参考資料 1 日本の Proposal 状況 ' 07 October
参考資料 2 今後の航海予定

議事録(案)

[報告事項]

1) 航海中の「ちきゅう」の運航状況、今後の航海予定

CDEX の江口氏より標記の件について報告がなされた。

- 9月21日ちきゅう出航 (Exp. 314)。
- Exp. 314 は諸所のトラブルにより当初予定の6サイトの掘削は出来ない。現在は、陸側の3サイトについてLWDを行うという目標でオペレーションを行っている。
- 今後はExp. 315, 316を2008年2月5日まで行う。316後はドックに入り、その後次の航海を行う。
- NanTroSEIZE stage 2についてはCo-Chiefや乗船者の募集の日程はまだ決まっていない。

2) 新しい乗船者選考WG制度の経緯、実施後の感想

執行部荒井氏より、新しい乗船者選考WG制度の経緯について説明がなされ、その後、全体で方法や個人情報に関する件について議論が行われた。

- WG制度の経緯
 - ・ 乗船者選考のためのランキング作業軽減のため、執行部においてランキング方法の見直しを行った。
 - ・ ランキングの手順は、1. Co-Chiefによるランキング、2. 科学推進専門部会から選ばれた3人の担当者(watchdog)による検討、3. Co-Chiefによる検討、4. 科学推進専門部会での承認の順に行われる。
 - ・ 担当者の3人は科学推進専門部会の分科会長の推薦によって選出される。各航海の専門性を考慮し3人のうち1人が主担当となる。
 - ・ これまで行われていた1位から順位をつけるランキングではなく、欧米で行われているABCでのグループ分けによるランキング方法で行う。
 - ・ 日本人Co-Chiefがない場合、乗船申込者の中からその航海の日本人代表となる研究者を選出し、その研究者と担当でランキングを行う。
 - ・ Co-Chiefまたは日本人代表乗船研究者に、ランキング作業の際に必ずしも先にランキングする必要が無いという取り決めにすることが合意された。
 - ・ 日本人Co-Chiefがいる場合・いない場合などを含めて、ランキング作業について文章化するには誤解の無いような表現にする。
- 個人情報(CV)の取り扱いについて
 - ・ ランキング作業中のメールのやり取りでは匿名性を保つことは必要だが、最終的に科学推進専門部会全体で承認する際には個人名を出すべきである。
 - ・ 個人情報の取り扱いについては、国外PMOの状況を事務局で調査中、その調査を踏まえて、次回のCanterbury航海とWilkes Land航海のランキングまでには、個人情報の取り扱いについて(どこまで厳密にするか)の方針を決定することが合意された。

3) 各国内部会の進捗状況、IODPの国際動向

資料2に基づき、事務局より掘削船の運航計画、プロポーザルの提出状況、SASパネル再編などの国際動向、および、今年度の執行部会活動と専門部会活動について説明がなされた。

■IODP 国際動向

1. 掘削船の運航計画

- ・ IODP 予算の都合上、ちきゅうと JR 号が約 7 ヶ月間、MSP が 2 年に 1 航海が運航の目標となる。
- ・ JR 号は 2008 年 5 月の Pacific Equatorial より運航再開。

2. プロポーザル

- ・ Mission Monsoon は DPG (Detailed Planning Group) を立ち上げる件が SPC で承認された。
- ・ CDP には 707Full2 が承認された。
- ・ 外部資金を導入した掘削計画 CCP (Complementary Project Proposals) が新設された。

3. SAS パネル再編

- ・ パネル開催数の削減、一部のパネル委員の日米ボランティアな削減が検討されている。
- ・ 委員の削減は分野のバランスを考えながら行う。

4. その他

- ・ SASEC から IODP の第 1 期の後半に向けて、ISP の更新として重点領域の実行計画案が提示され、パブリックコメントを募集している。
- ・ IODP-MI のスリム化について BoG および LA を中心に検討が行われている。

■執行部会活動と今後の方針

1. 執行部委員構成

- ・ 4 月から新メンバーで活動。

2. ボトムアップでしかも迅速対応

- ・ 4 月初旬にとったアンケートをもとに議論を行っている。

3. 運営スケジュール

- ・ 最初の半年で J-DESC 業務のマニュアル化、乗船研究者向けのノウハウ集の整備、J-DESC コアスクールの立ち上げを行い、次の 1 年で IODP・J-DESC 活動の戦略化議論、最後の半年で、ルーチンで機能するかの検証を行う。

4. J-DESC コアスクール

- ・ 今年度から J-DESC がコアスクールとして系統的に行うことになった。会員機関からの学生・院生の参加者には旅費の支援を行っている。

5. お金 (J-DESC+JAMSTEC からの委託費)

- ・ J-DESC 活動資金を増加させるため、会員機関を増やす。
- ・ JAMSTEC から AESTO への委託費による支援枠が拡大された。
- ・ その枠とは、Pre-Cruise トレーニング支援 (航海前に日本人乗船研究者が集まり、戦略などについての議論・技術的訓練を行う)、HUET training 参加費 (ちきゅうに乗船するために必要なヘリ脱出トレーニング)、After-Cruise 支援 (航海後に高知コアセンター等に分析を行うための旅費)。
- ・ After-Cruise に関わって、高知コアセンターの共同利用枠で、IODP 枠を新設する場合、J-DESC が窓口になったほうが良い。

6. 海外との交流

- ・ 日韓合同シンポジウムが 11 月 21 日~23 日
- ・ ドイツとの間で若手研究者の交流を検討中。

7. ICDP との相互理解

- ・ IODP 部会と陸上掘削部会の懇談会を 12 月に計画中。

8. その他

- ・ IODP 大学&科学館キャンペーンを千葉大学、鹿児島大学で実施。
- ・ IODP-MI と協力し3月に国外研究者による講演会（DRILLS）を国内4箇所で開催予定。

4) 新旧交代 SSEP 委員の紹介、今後の委員交代予定の確認

丸山部会長より資料3に基づき、標記の件について説明がなされた。

- 多田 SSEP 議長が退任、高井委員が退任。新たに石渡氏（11月）、稲垣氏（2008年5月）が就任する。

5) 部会分科会委員の交代／再任について

丸山部会長より標記の件について、資料4に基づいて説明がなされた。

- 今年度で、西委員以外の委員は全て任期満了になるため、再任または退任について決定する必要がある。
- 基本的には全員再任の方向で検討するが、各委員に再任の希望を聞いたうえで、来年の春までに後任の選出などを含め、体制を検討することが合意された。

6) その他の連絡事項

江口氏より IODP-MI の現状について説明がなされた。

- 新規プロポーザルが減っている。
- OTF で停滞しているため、運航計画の再検討が必要になってきた。

[審議事項]

1) 次に予定される2航海 WG 委員の選出と進め方

丸山部会長より資料1-1に基づき、標記の件について説明がなされ、承認された。

- Canterbury は伊藤委員、Wilkes Land は西委員がそれぞれ主担当。
- 若い乗船申込者をどのように取り扱うかについては、特に決まりは無いため、担当 WG の判断に任せる。
- Co-Chief に日本人がいない場合、日本のまとめ役は応募者の中から選ぶ。
- 最終的に専門部会で承認する際には応募者の名前はオープンにする。
- ランキング作業の際、Co-Chief または日本人代表乗船研究者に、部会の担当者による作業の前提となるランキングとともにその根拠を先に提出いただく 必要があることを伝える。ただし、必ずしも応募者全員のランキングをする必要は無い（例えば、特定分野に関して、分野外でランキングが困難であるなど）。

2) H18 年度採択 IODP 掘削プロポーザル作成支援課題のアフターフォロー

丸山部会長より資料5-1、5-2に基づき、標記の件について説明がなされた。

- アフターフォローのための報告書として、今後の参考・基準となりうる経過報告書の提出をしてもらうのが望ましい。
- 資料5-1については、予算の執行報告を含めて再提出してもらい、メールベースで審議、という手続きを行うことが承認された。
- JpGU の地球掘削科学セッションにおいて、採択課題の成果報告を行ってもらうことが承認された。ポスター発表でも可。

3) 新しい掘削提案の掘り起こしについて

標記の件について丸山部会長から説明がなされ、全体で議論がなされた。

- 今後、執行部や事前調査専門部会と協力して、プロポーザルの育成を行っていく。
- 提出されているプロポーザルのうち、Solid earth が最も多くを占め、Deepbiosphere や Paleoenvironment は少ない。Deepbiosphere のプロポーザルは特に少ない。
- 例えば、微生物研究者が単独で微生物 dedicate のプロポーザルを書くのは難しいため、他の航海に付随する APL のプロポーザルを書くことを推進する。
- APL は多くが reject されているため、日本のコミュニティとしてうまくバックアップすることを考慮する必要がある。
- SSEP に関連する人のみが情報を持っているような事態にはならないようにしなければならない。
- APL に集中することなく、Full Proposal を書くことも重要であり、並行して進めていくことが大切。

4) その他

～ SSEP 事前打ち合わせ会議 ～

1) 予定される SSEP 会議の事前検討会

今回の SSEP におけるプロポーザルのレビューについて検討が行われた。

- 今回の SSEP はプロポーザルの数が少ない分、プロポーザルをじっくり議論し、かつ Implementation Plan についても議論する時間はあるだろう。
- Paleoenvironment のプロポーザルに Deepbiosphere が絡んでいるものがある（672 Baltic Sea など）。
- 日本として IBM を推す。

2) 次々回 SSEP の開催日程について

多田議長より標記の件について説明がなされた

- 次々回 SSEP(韓国釜山)は2008年5月19~22日に開催することを SSEP に提案することが承認された。
- KIGAM がホスト。

3) 退任者あいさつ

今回の SSEP をもって退任する多田議長より退任の挨拶があった。

- IODP はスリム化すると同時に、新しく良いものを常に入れ込むという姿勢が今後のためにも必要であると思う。

4) 新任者あいさつ

新任者欠席のため、多田 SSEP 議長より新 SSEP 委員の石渡氏が紹介された。

5) その他

Implementation Plan について多田 SSEP 議長より説明がなされ、全体で議論が行われた。

- ISP を縮小し、新たなテーマを受け入れにくくするような方向性が強いことが問題点として挙げられる。
- 新しいテーマを持ったプロポーザルも受け入れていくプランが今後将来のためにも必要。